

# 令和2年度 第2回北陸地方整備局 事業評価監視委員会

令和2年度第2回  
北陸地方整備局  
事業評価監視委員会

## 対象事業位置図

国道159号金沢東部環状道路  
(再評価)

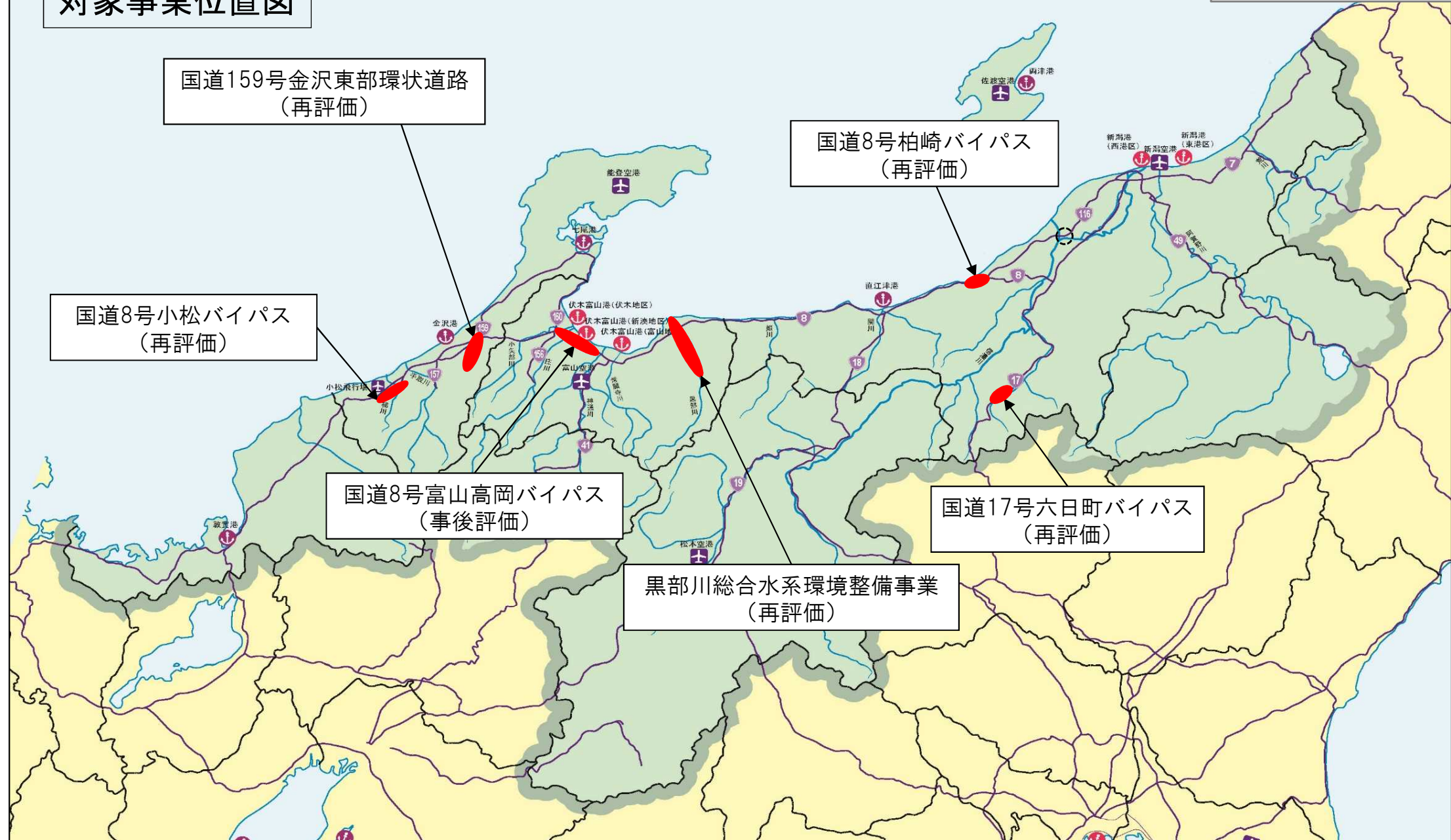
国道8号柏崎バイパス  
(再評価)

国道8号小松バイパス  
(再評価)

国道8号富山高岡バイパス  
(事後評価)

国道17号六日町バイパス  
(再評価)

黒部川総合水系環境整備事業  
(再評価)



## 令和2年度 第2回北陸地方整備局事業評価監視委員会 審議案件の概要

## 【再評価】

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト削減や代替案等の可能性	前回再評価年度	該当要件	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業年数 上段:前回評価時 下段:現時点	事業の投資効率性 上段:前回評価時 下段:現時点	事業の効果等	都道府県・政令市等の意見	対応方針(原案)	審議区分	備考	
1)道路事業の再評価																	
国道8号 小松バイパス (金沢河川国道事務所)	自:石川県能美市 至:石川県加賀市	平成19年度 事業化 平成21年度 工事着手	事業の効果や必要性に 影響を及ぼすような 大きな社会情勢等 の変化は無い。	事業進捗率79% (令和元年度末時点) 残事業の内容:改良工 事、橋梁工事、舗装工 事等	小杉IC～千代能美IC間 について、令和2年内の 4車線化供用に向けて 工事を推進する。 残る区間について、早 期の全線4車線化に向 けて事業を推進する。	新技術の積極的な活 用により、コスト削減 を図る。	H30年度	社会経済情勢の 急激な変化等 (事業費が増加し たため)	約100	17年	【事業全体】 総便益B:897億円 総費用C:180億円 B/C=5.0	【残事業】 総便益B:412億円 総費用C:52億円 B/C=7.9	①走行時間の短縮 ②交通事故の減少 ③日常生活圏の各都市間の連携強化 ④物流の円滑化 ⑤主要な観光地へのアクセス向上 ⑥緊急輸送道路としての機能向上 ⑦地域連携プロジェクト(石川県新長期構 想)の支援 などが期待される。	事業継続	事業継続	重点審議	
									約125 増額 25%	20年 延長 18%	【事業全体】 総便益B:949億円 総費用C:217億円 B/C=4.4	【残事業】 総便益B:202億円 総費用C:53億円 B/C=3.8					
2)道路事業の再評価																	
国道17号 六日町バイパス (長岡国道事務所)	自:新潟県南魚沼市 至:新潟県南魚沼市	平成6年度 事業化 平成10年度 用地着手 平成12年度 工事着手	事業の効果や必要性に 影響を及ぼすような 大きな社会情勢等 の変化は無い。	事業進捗率71% 用地進捗率81% (令和元年度末時点) 残事業の内容:南魚沼市 竹俣～同市小栗山、南魚 沼市余川～同市庄之又 の暫定2車線整備	南魚沼市余川地区(延 長0.8km)について、令 和3年夏迄の暫定2車線 部分開通を目指して改 良工事等を推進する。	建設発生土の有効活 用や新技術の活用等 により、コスト削減を 図る。 現道取付部の立体交 差を平面交差に見直 すことを検討し、コス ト削減を図る。	H28年度	社会経済情勢の 急激な変化等 (事業費が増加し たため)	約302	30年	【事業全体】 総便益B:312億円 総費用C:364億円 B/C=0.9	【残事業】 総便益B:182億円 総費用C:111億円 B/C=1.3	①走行時間の短縮 ②交通事故の減少 ③雪国観光圏形成による地域活性化 ④地域間交流活性化による新たな生活圏 の形成 ⑤第三次医療施設等へのアクセス向上 ⑥緊急時のリダンダンシーの確保 ⑦冬期交通障害の解消 などが期待される。	事業継続	事業継続	重点審議	
									約342 増額 13%	33年 延長 10%	【事業全体】 総便益B:368億円 総費用C:466億円 B/C=0.8	【残事業】 総便益B:256億円 総費用C:114億円 B/C=2.2					
3)河川(環境)事業の再評価																	
黒部川総合水系環境整備事業 (黒部河川事務所)	富山県黒部市 富山県入善町	平成7年度 (1995年) ～ 令和9年度 (2027年)	黒部川自然再生事業 の進捗に対しては、着 手時点と変わらず地元 の強い要望があり、ま た、河川愛護活動も積 極的に行われている。 居住人口等の社会的 変化もない。	令和2年度末時点(予 定)で、事業全体の進 捗状況は81%、自然再生 事業の進捗状況は50%で ある。	黒部川の環境整備の 進捗に対する地元から の強い要望もあり、事 業進捗の支障となるよ うな課題はなく、着実 な進捗が見込まれる。	河道掘削で発生す る土砂の築堤材への 活用や河道内樹木を 伐採後に無償配布す る等コスト削減を図 っており、今後も施工 段階やモニタリング調 査等において効率化を 図り、更なるコスト 削減に努める。	H27年度	再評価後 一定期間経過	約19	33年	【事業全体】 総便益B:46.9億円 総費用C:25.9億円 B/C=1.8	【残事業】 総便益B:20.9億円 総費用C:6.4億円 B/C=3.3	平成29年度に隠れ場・避難場を整備した箇 所では、平成30年度以降の調査において、 これまでサクラマスなどの5種の魚類が確 認されている。	事業継続	事業継続	一括審議	※国土交通省所管公 共事業の再評価実施 要領の運用について (通知)に基づき、B/C は平成27年度評価時 点
									約19	33年	-	-					
4)道路事業の再評価																	
国道8号 柏崎バイパス (長岡国道事務所)	自:新潟県柏崎市 至:新潟県柏崎市	昭和62年度 事業化 平成3年度 用地着手 平成5年度 工事着手	事業の効果や必要性に 影響を及ぼすような 大きな社会情勢等 の変化は無い。	事業進捗率73% 用地進捗率93% (令和元年度末時点) 残事業の内容:用地取 得、道路設計、埋蔵文化 財調査、改良工事	柏崎市城東～同市鯉波 間の調査・設計及び柏 崎市東原町～同市苅目 間の工事を推進し、早 期の暫定2車線供用を 目指して事業を推進す る。	建設発生土の有効利 用や新技術の活用等 により、コスト削減を 図る。	H29年度	社会経済情勢の 急激な変化等 (事業費が増加し たため)	約826	39年	【事業全体】 総便益B:1,239億円 総費用C:279億円 B/C=1.1	【残事業】 総便益B:1,047億円 総費用C:279億円 B/C=3.8	①走行時間の短縮 ②交通事故の減少 ③災害時における交通の確保 ④冬期間のスムーズな交通の確保 ⑤主要な観光地へのアクセス向上 などが期待される。	事業継続	事業継続	一括審議	
									約856 増額 4%	42年 延長 8%	【事業全体】 総便益B:1,343億円 総費用C:1,338億円 B/C=1.003	【残事業】 総便益B:1,227億円 総費用C:248億円 B/C=4.9					
5)道路事業の再評価																	
国道159号 金沢東部環状道路 (金沢河川国道事務所)	自:石川県金沢市 至:石川県金沢市	昭和62年度 事業化 昭和63年度 用地着手 平成3年度 工事着手	事業の効果や必要性に 影響を及ぼすような 大きな社会情勢等 の変化は無い。	事業進捗率92% 用地進捗率100% (令和元年度末時点) 残事業の内容:トンネル 工事、改良工事、橋梁工 事等	早期の全線4車線化に 向けて、月浦町～神谷 内町間のトンネル工事 及び改良工事を推進 し、梅田町～月浦町間 についても引き続き事 業を推進する。	今後の改良工事等に おいて、新技術を積極 的に活用することでコ スト削減を図る。	H27年度	社会経済情勢の 急激な変化等 (事業費が増加し たため)	約1,250	38年	【事業全体】 総便益B:8,151億円 総費用C:1,882億円 B/C=4.3	【残事業】 総便益B:2,438億円 総費用C:190億円 B/C=12.9	①走行時間の短縮 ②交通事故の減少 ③日常生活圏の連携強化 ④主要観光地へのアクセス向上 ⑤第三次医療施設へのアクセス向上 ⑥防災機能の向上 ⑦地域産業への支援⑧地域連携プロジェ クト(石川県新長期構 想)の支援 などが期待される。	事業継続	事業継続	一括審議	
									約1,270 増額 2%	40年 延長 5%	【事業全体】 総便益B:7,352億円 総費用C:2,329億円 B/C=3.2	【残事業】 総便益B:1,346億円 総費用C:112億円 B/C=12.0					

## 【事後評価】

事業名 (箇所名)	対応方針(案)		同種事業の計画・調 査のあり方や事業評 価手法の見直しの必 要性	事業化等年次	完成年次	全体事業費	全体B/C (事後)	備考
	今後の事後評価 の必要性	改善措置 の必要性						
1)道路事業の事後評価								
国道8号 富山高岡バイパス (富山河川国道事務所)	必要なし	必要なし	必要なし	昭和41年度	平成27年度	約570億円	3.2	